

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和6年度第4回 相模原市子ども・子育て会議		
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8315 (直通)		
開催日時		令和6年7月19日(金) 午後6時から午後8時27分まで		
開催場所		相模原市役所 本庁舎 第二別館3階 第三委員会室		
出席者	委員	11人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	16人(こども・若者政策課長ほか15人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会  2 議 題 (仮称)次期相模原市子ども応援プランについて(資料1~4)  3 閉 会		

## 1 開会

片山会長の挨拶の後、次第に沿って進行された。

## 2 議題

(仮称)次期相模原市子ども応援プランについて

事務局から、(仮称)次期相模原市子ども応援プランの策定スケジュール、次期計画成果指標(案)、事業一覧について、説明した。委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

(片山会長)基本目標2の成果指標について、前回の修正内容と同じだが、受講した研修の基準となる研修をどのように想定しているのか。また、基本目標3の成果指標案について庁内調整中とのことだが、教育委員会・学校等で共有・利用できるデータがあれば活用すべき。

(朝比奈委員)前回会議で様々な意見があったが、成果指標案にあまり意見が反映されていない。特に基本目標2は、「子どもの育ちを支える機能の充実と人材の確保を推進します」という基本目標に対し、人材確保に関する成果指標が何も謳われず評価もされないことが疑問である。また、外部研修の内容を園内に報告することを園内研修としてよいのか。保育や教育関係者だけではなく一般市民から見ても疑問に感じるのではないか。

(事務局)人材確保に係る成果指標については今後検討する。成果指標は設定が難しく、事務局としても議論があった。保育の質を測るにあたっては、外部評価など客観的なものが望ましいと考えるが、全園が定期的に評価を受けることが困難なため、指標とすることは難しい。また、目標を設定するには指標数値があるのが大前提であるが、園内研修等を行うことによる知見・ノウハウが共有され質の向上につながっていく過程を数値で測るのが困難なため、研修の回数を成果指標案として示している。

(川井委員)研修より人材確保が目標と取組の中に入っている。保育士の配置基準が30対1から25対1に変わり、さらに保育人材を確保していかないといけない。園内研修をする場合、研修時間は保育に充てることができなくなるため、より人材の確保が必要になる。ノンコンタクトタイムを確保するという協議もされていると思うが、研修の量を増やすと人材がいなくなり、保育が困難になるなど悪循環となっていく。人材を確保する取組が一番の課題であるが、東京都と比べると相模原市は予算が厳しい。決算を見ると予算の半分しか使われていない事業があったり、家賃補助も川崎市や県内と比べてもいい位置にはいないと思っているので、人材確保に焦点を当てる必要がある。

(片山会長) 研修に関しては、処遇改善のために市が予定している研修を受けているかなど、導入当初は取組の意欲や質を高めていくための取組と理解されていたと思う。園内研修について定義しないと、ほとんどの研修が園内研修であるという回答になる可能性がある。基本目標2の成果指標についてはもう少し検討していただきたい。

(園田副会長) 基本目標、取組の方向性、成果指標の関連性を理解できない。基本目標に「子どもの育ちを支える機能の充実」とあるが、「機能」というのはどういうことをイメージしているのか。就学前の子どもに対する教育・保育の充実を、保育の質と置き換えているのだと思うが、それと機能がどう結びつくのかが分からない。また、きめ細かな学校教育の推進が全く測られていない。一つのセンテンスの中に二つの目標が盛り込まれていて、前者だけを成果指標として取り上げているが、根拠が不明である。

(事務局) こども大綱を受け、市こども計画の策定に向けて議論していただいている。これまでは、国が待機児童の解消を重点的に進めてきた。今後は保育の質や保育機能の充実にシフトしていく流れがあり、本市も保育の質の向上を成果指標にしていきたい考えがある。研修回数で保育の質を測ることができるのかは疑問があるが、庁内における様々な議論を経て成果指標案がある。確かに、様々な研修がある中では園内研修の定義をしないと、各園の捉え方に差が生じる。外部講習を受講した職員が、知識やノウハウ等を園内で他の職員へ伝えていくことを園内研修としたい。人材確保が重要であることは十分理解しているが、それを成果指標とする場合、補助金等の議論が発生する可能性があることや成果指標にするための現在値がないことが課題である。

(朝比奈委員) 園内研修は、外部で受けた研修を園内に周知するだけではなく、園内での様々な課題について職員間で話し合いや調査をし、場合によっては公開保育を行い、意見を得ることを含めたものであり、必ずしも外部の研修の内容を周知することだけではない。また、園内に講師や研究者を招いて行う研修もあるため、園内研修の捉え方をもう少し考えていただきたい。また、基本目標等から具体的な事業が分からないため、成果指標を設定しにくい。

(片山会長) 現在の成果指標には現在値があるため、スタイルとしては大きく変わらないような形で掲示しているが、基本目標などからのつながりがあまりなく違和感を生じている。全ての項目を会議内で細かく定めていくと時間がかかるため、改めて書面で各委員から意見を出してもらってから再度成果指標を提示してもらおう形でも良いか。

(事務局) 成果指標に対する主な取組として、これから各事業の説明を行う予定のため、先に事業の説明を行ってもよいか。

(片山会長) 基本目標などからのつながりをイメージしやすくするため、事務局から具体的な取り組みを説明していただこうかと思うが委員の皆さんは良いか。

(石井委員) 話の内容が多いため先に発言する。基本目標2について、目標とかみ合っているのかわからず腑に落ちない。基本目標1について、自己肯定感を測る指標が書かれているが、自己肯定感とは、良いところも悪いところもあるのが自分であると思えることだと考える。この表現では、「良いところがないと自己肯定感を持ってない」と誤解されるのでは。基本目標2について、ニーズに合わせて利用できる保育の種類に満足しているというところが育ちを支える機能の充実だと解釈をしたが、ただ社会に求められているもので満足できることがやはり保育の質につながるのかが疑問に思う。基本目標3について、「居場所があると感じる子どもの割合」を成果指標としているが、公共施設に限定されていることに違和感がある。基本目標9について、2つ目の成果指標である「地域とのつながりがあると考えられる乳児保護者の割合」はどういった指標になるのかを考えたが、最近は授乳室が充実され、授乳室で離乳食も食べてよいのかというのが話題になった。良い場所もあれば離乳食は授乳ではないという意見もあるので、授乳室を利用しやすくするというような指標もどこかに入ると良いと感じた。

委員の了承を得て、事務局から資料3の説明を行った。

(朝比奈委員) 具体的な取組を示していただき分かりやすくなったとは思いますが、例えば基本目標1について、基本目標1の101番に「子ども・若者が参加し、又は意見を表明する機会の確保をする。」とあるが、何に対して意見を聞くのか。これはこども基本法の第11条の子ども施策に対する子ども等の意見の反映というところから来ているという推測をする。子どもに関わる施策を作るときには子どもや若者の意見を聞く機会を設けなさいということだが、具体的にどういうものに対して意見を聞き、反映させていくのかが不明であり、成果指標としては、子ども・若者が自分たちに関わる施策に対して意見を表明する機会を得ているという実感を持っているかどうかのほうが、「自分に良いところがあると思う」という成果指標より基本目標に合っていると感じる。

(事務局) 子ども・若者へ意見を聞く具体的な内容等については現在検討しているが、基本的には国からもガイドラインが示されているとおり、子ども・若者に関わる施策を実施するために聞くものであり、全庁的な状況を踏まえ、実施していきたい。また、成果指標については様々な意見があるが、指標の現在値がないと5年後の数値目標を設定することができないという問題があり、新たな指標の設定が難しい。

(片山会長) 成果指標を新規で設定することについて、現在値がないという理由で設定できないのはいかがなものか。現在値がないと成果指標を設定できない理由があるのか伺いたい。

(事務局) 成果指標とは、例えば現在値が40%であるものを、5年後には50%まで上げていこうと目標設定するものである。つまり、現在値がないと目標の設定ができないという問題がある。

(片山会長) 現在値がないと目標の設定ができないとなると、いろいろと制限が発生するが委員はいかがか。

(朝比奈委員) 中間目標を設定するのはどうか。計画は5年間なので、中間の評価があって最終的な評価があるのが良いと思う。現在値がないから目標設定できないではなく、スタートはゼロとしてまず40%ぐらいを目指し、パーセンテージはともかく、例えばこれぐらいの周知ができるようにしようといった行動の過程で評価しても良いのでは。

(片山会長) 様々な事業があるなかで現在値がないことを理由として設定できないのは勿体ないと思う。園田副会長に伺いたい。成果指標について、現在値との比較が重要だという考え方があるのか。

(園田副会長) 成果指標というのは捉え方がいくつかあり、ビジネスモデルだと目標値を設定する。売上目標を設定し、現在値に対する数年後の数値と比較するのが成果という捉え方。だから、現在値がないと伸び率が分からないことは理解できる。新規目標を設定した場合は、現在値が分からないため比較はできないが、今こういうことなので目標をこれに設定するというのはありだと考える。行政のルールは分からないが、今回は新規事業なので現在値ははっきりしないけれども、現在値をゼロと設定し、5年後にどう伸びたかという解釈にするのか。

(事務局) 目標設定については現在値を考慮しなければ理想的な目標が設定できないという問題がある。今後は、成果指標とは別に気になる事業について数値を測り、この会議に報告するのは可能かと考えている。

(笹嶺委員) 資料2の見方が分からないが、基本目標1について、成果指標は前回会議から変わっていないということか。

(事務局) そうである。

(笹嶺委員) 目標に対してこの割合を取るのか。

(事務局) 事務局としては前回会議から変更なし、という案を提示している。

(笹嶺委員) やはり基本目標と成果指標がかみ合っていないと感じる。現在値がなくても、子ども・若者自身が、意見を聴く取組に参加している意識を直接的に問うものがあつたほうが成果指標としてもよいと考える。また基本目標3の成果指標について、庁内調整中ということだが、違う指標になるということか。違う指標を選定するにあたり、現在値があるものを持ってくるのか。これから新たに探っていくような感じか。

(事務局) 現在値があるものから選定していきたいと考えている。

(笹嶺委員) 基本目標1について、子どもたちの意見が自治体の施策に関わることはあまりない機会なので、意見を聞いてもらえる場がある、子どもたちの意見が反映されたその成果が見られることなどを成果指標とするのが良いと思う。

(安西委員) 資料3のNo. 102について、公立クラブの学校等との連携や体制整備などが記載してあるが、ここには民間学童は入っていないことを以前担当課に確認して

いる。公立と民間で一方には含まれる、含まれない状況だと、児童や保護者から不安が生じるため、なぜ分けているのか伺いたい。

(事務局) 民間児童クラブの支援は No. 104 に記載してある。市で取り組む事業のため、まず公立の児童クラブを前提としている。

(安西委員) 民間児童クラブに通われている児童や保護者はどのように思うか。公立児童クラブだところという下支えがあるけど、民間児童クラブだと補助金で対応するなど、民間と公立に差を感じている。

(事務局) 事業概要に民間児童クラブでの学校との連携などの記載がないということか。

(安西委員) そうである。表面では見えないが実は公立と民間で差があることをすごく感じる。

(野口委員) 障害者関連も同様なことが生じている。市から応援してほしい気持ちがあり加えてもらうことは可能なのか。バンビとかはどうなのか。

(事務局) 児童発達支援センターの関係では、基本目標 7 の No. 273 の下に新規があり、民間児童発達支援センターの運営支援に含まれる。

(片山会長) 文言の表記については誤解を招く可能性があるため結構重要である。先ほどの児童クラブの部分も含めて検討していただきたい。

(事務局) 放課後デイサービスや児童発達支援センターの関係では、児童発達支援センターが児童福祉法の改正により福祉型・医療型という類型がなくなり、地域で両方を受け入れることとなった。また、他の改正点として、児童発達支援センターが地域の障害児における中核的な役割を担っていくこととなる。例えば重度発達支援センターが地域の放課後デイも含む事業所等に助言を行うことである。国では3年間の猶予をもって進めていくとのことなので、市では児童発達支援センターの「ひだまり」及び各区に設置している「いっぽ」、「青い鳥」、「バンビ」で連携して協力していきたいと考えている。

(押田委員) 現在値がないと成果指標が設定できないことについて、事情は分かるが新規事業こそ様々な指標で評価しなければいけないと考える。また、意見照会シートにて取組の方向と施策の方向と似たような言葉が入っており、非常に対比がしづらい。表現を合わせる必要があると思うがいかがか。

(事務局) 取組の方向と施策の方向の表現の違いについては、元々取組の方向として各事業を並べるイメージだったが、具体的に計画に施策の方向を表現する際に、事業を表現できない部分があった。表現できていないと余計に分かりにくくなってしまったため、このような表現にした。

(朝比奈委員) 現在値がないと成果指標が設定できないことについて、何か根拠があるのか。例えば国から通知やガイドラインの提示があり、明確に指標を作る上で現在値がなければならぬとなっているのか。もしそうであるならば、国に対して新

しい指標を作ってもよいか問い合わせてみるという方法もあるのではないか。また、成果指標を現在値ありきで決めるのであれば、どのような選択肢があるのか。選択肢を提示していただかないと意見が言いづらい。例えば基本目標7に子どもの貧困対策を推進するとあるが、子どもの貧困率は国が出している。相模原市が把握していなくとも国の現在値が分かるため、これを基に目標設定をして施策を行うのはどうか。

(事務局) 国はこども計画を策定するためのガイドラインを出しており、成果指標の例はあるが現在値の有無については特に示してはいない。今一度、市で把握している数値以外の数値も含めて検討する。

(園田副会長) 成果指標は客観的な根拠がないと設定できないのは確かである。ただ、「子育てするなら相模原」という高い理想掲げているのであれば、全国の政令市等で行っている一番先駆的な取組を目標値として設定し、その目標にどれだけ近づけたのか評価する方法もある。その数値を設定してよいかというと相関関係と因果関係を考えなければならぬため判断が難しい。先駆的な市としての客観的な根拠を基に成果指標を設定する考え方も一つの方法としてある。

(片山会長) 委員から成果指標について様々な意見がでた。本日の意見を基に再度事務局に案を提示していただきたいがいかがか。

(事務局) 承知した。

(片山会長) 重点的な取組や成果指標について、後日意見を出しても良いか。

(事務局) 問題ない。7月26日(金)の正午までに提出いただきたい。

### 3 その他

なし

### 4 閉会

事務局より、次回は8月19日(月)に開催することを伝え、閉会した。

## 相模原市子ども・子育て会議委員名簿

(五十音順)

番号	氏名	役職・推薦団体	出欠
1	あさひな たろう 朝比奈 太郎	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	出席
2	あんざい しゅんいち 安西 俊一	相模原市学童保育連絡協議会	出席
3	いしい やすこ 石井 康子	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出席
4	おしだ ゆうすけ 押田 裕輔	公募市民	出席
5	かたやま ともこ ◎片山 知子	和泉短期大学児童福祉学科 特命教授	出席
6	かわい たけひこ 川井 赳彦	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	出席
7	ごとう りょう 後藤 亮	公募市民	欠席
8	ささみね ゆか 笹嶺 由香	相模原市立小学校長会	出席
9	そのだ いわお ○園田 巖	東京都市大学人間科学部准教授	出席
10	たがわ つぐよ 田川 継世	一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	出席
11	のぐち かずよ 野口 和代	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出席
12	ばば まゆみ 馬場 眞由美	相模原市民生委員児童委員協議会	欠席
13	ふせ あきよし 布施 昭愛	相模原商工会議所	欠席
14	ますだ たかのり 増田 貴範	日本労働組合総連合会神奈川県連合会 相模原地域連合	欠席
15	みうら ともり 三浦 友則	相模原保育室連絡協議会	出席

◎会長、○副会長